

東洋大学 過去問解説講座

(二〇二六年 駿台予備学校 今井 愛子)

A 出題傾向

- 問題一 漢字
- 問題二 現代文
- 問題三 古文

①知識問題

漢字の書き取り(選択式)や語彙を問う問題が出題される。

語彙のレベルは標準的なものが多いため、なるべく得点したい。語彙力は大学受験という枠を超えて日本語話者として必須のもので、受験を機に養いたい。

②読解問題

a 本文

字数……四〇〇〇字強～五〇〇〇字。評論が出題される。

テーマ……言語・歴史・思想・メディア・社会・文化など

受験生にとって比較的取り組みやすいテーマが多い。

難易度…標準

b 設問

オーソドックスな設問が中心。

語句の知識、接続語補充、傍線部の内容説明、傍線部の理由説明、空欄補充、脱文挿入、内容合致など多岐に渡る。

「合致するもの」はもちろんのこと「合致しない」選択肢を答えたり、二つ以上の選択肢を選んだりする場合もあるため、丁寧に設問を読む必要がある。

B 対策

a 読む力

文章の長さによっては、あまり時間に余裕が無い場合もあるかもしれないが、しっかりと文章に向き合ってその内容を読み取ることが求められる。

過去問を中心に様々な文章を読んで慣れる必要がある。

主旨を理解するだけでなく細かい読解も求められる。

読む力の差がそのまま得点に反映されると考えられるので、練習量をしっかり積みた
い。

b 解く力

設問は非常にオーソドックスなものばかりなので、基本的な設問で失点をしないよう
注意したい。

特に傍線部の内容説明や内容合致問題は、「a 読む力」によるところが大きいので、「い
かに設問を解くか」という小手先の技術にとらわれるのではなく本文理解を優先すべ
き。

日程により本文の長さが異なるため、試験開始の合図と同時にまず冊子全体に目をと
おし解けそうな問題から取り組もう。

c 語彙力

漢字の参考書は一冊終わらせる。漢字の形だけではなく、意味も併せて覚える。

慣用表現なども含め、現代文を学習する際は知らない言葉が出て来たらその都度調べ
覚えていくようにする。

C 具体的な練習方法

基本的には東洋大学の過去問を利用し、練習を積む。

まずは時間をはかり、設問を解く。その後答え合わせをする前に、もう一度じっくり本文を読み返し、答えを出してみる。その際、解答根拠を明確にしたい。その上で答え合わせをし、1度目と2度目の得点の差を含め本文を検討する。最後に、漢字や語句の意味など暗記すべき知識を確認する。

D 現代文攻略の要

その一 漢字・語句の知識の強化

問題一 次のaの傍線部を漢字に改めた場合、カタカナ部分がこれと同じ漢字を用いるものを、次の中から一つ選べ。

- a 親子の**カクシツ**
- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| ① シツセキを受ける | ② 首相のシツム室 | ③ シツカンの予防 |
| ④ 熊をイカクする | ⑤ 米をシュウカクする | |

熟語の構成

A 二字熟語の構成

- ① 意味が対になる(例 大小・前後)
- ② 似た意味を重ねる(例 絵画・温暖)
- ③ 上下が修飾・被修飾の関係(例 少年・強風)
- ④ 下の字が上の字の目的語・補語(例 読書・登山)
- ⑤ 上下が主語・述語の関係(例 地震・日没)
- ⑥ 上の字が下の字を打ち消す(例 不安・未然)
- ⑦ 上の字が下の字に尊敬の意味を添える(例 御殿・貴社)
- ⑧ 同じ漢字を繰り返す(例 人々・続々)
- ⑨ 下の漢字が上の漢字を助けて意味を添える(例 様子・美化・突然・知的)
- ⑩ 故事成語(例 蛇足・推敲)
- ⑪ 字とは別の意味(例 赤字・光陰)
- ⑫ 長い熟語の略語(例 中学・入試)

その二 部分を正確に読解する力の養成

・
・
・
・

その三 文章全体の内容と構成をとらえる読解力の養成